

## 巻頭言



# 「名村テクニカルレビュー」 第27号発刊に際して

執行役員 伊東 義裕

この度「名村テクニカルレビュー第27号」が発行の運びとなりました。1998年の創刊以来、休刊もなく継続し発行し続けていることは、技術力向上に励んだ結果であり関係する各人一人一人頼もしく感じます。また、今年伊万里事業所竣工から50周年を迎えております。本誌では、50年を振り返り現在に至るその歩みを掲載しておりますので是非ご覧ください。

なお、この記念すべき50周年を迎えることができましたのもお客様・地元の皆様・先輩方・関係者各位のお陰であり、厚くお礼申し上げます。

さて、当社を取り巻く環境は急速に変化しています。当社グループの中核事業である新造船のマーケットはリーマンショック後の受注減少に始まり、コロナ禍による世界経済の停滞等により長き低迷の時期がありました。一方、ここ数年は環境規制やリーマンショック前後に建造した代替え需要により、世界的に受注量が増加しています。

「環境規制」よく聞く言葉ですが、我が国も2050年ゼロエミッション達成との目標を掲げ、官民取り組んでいるところです。造船業界を見てみると2018年に開催された海洋環境保護委員会において、GHG削減戦略が採択され、環境負荷の低い船舶が注目されるようになってきました。当社においても、昨年度はLPGと重油の二元燃料VLGC、LNGと重油の二元燃料大型石炭船など、難易度の高い燃料船を無事に竣工させております。一方、昨年開催された海洋環境保護委員会(MEPC80)において、GHG削減戦略の見直しが採択され、2018年の削減目標と比べて、より高い目標が設定されました。改正の意図することは、今後はより環境に優しい船を早く、沢山建造しなければならないということです。当社においても、これに乗り遅れないためにも、関連する全部門の技術力向上は勿論のことスピードアップを図る必要があります。また、製造部門において深刻となっている人手不足を補うために、生産性向上を目指した、伊万里事業所のスマートファクトリー化への取り組みも加速していく必要があります。

当社の研究開発の運用推進/管理を取り纏めている調査研究開発委員会では、このような課題への取り組みを実施しております。設計関係では、GHG排出量を削減することに対し、LPG、LNG、アンモニア、メタノールや水素などの燃料は勿論のこと、既存の重油焚きでの燃費向上や風力推進など様々な取り組みを実施しております。

当社は責任ある企業として、環境に優しい船舶を多数建造することで、持続可能な世界を築き上げていく取り組みを実現してまいります。

最後になりますが、当社グループの更なる成長のため、本誌を読まれた多くの方々からの忌憚のないご意見・ご講評をいただければ幸甚です。